「医」とは、人間を病の苦痛から解放すること。

八峰町名誉町民　日沼頼夫博士来町

11月3日、昨年文化勲章を受章された八峰町名誉町民の日沼頼夫博士による文化勲章受章記念講演会が開催されました。

午前中は、八森小学校を会場に町内3小学校の5、6年生と全中学生を対象に行われ、午後は、ファガスにおいて一般向けの講演会が行われ、約200名の方々が聴講しました。

八森小学校で行われた講演会では、はじめに菊地大海くん（八森小6年）が歓迎の挨拶をし、続いて佐藤みか子八森小学校長が日沼博士の経歴などを紹介。その後、日沼博士が登壇し、ご講演くださいました。演題は、「本を読む」。

日沼博士は、5、6歳のころ百人一首ではじめて「文字」というものに興味をもたれ、小学校に入学してから国語の教科書や読本、月刊雑誌を読んでいたそうです。月刊雑誌は大切なものの一つで、隅から隅まで読み通し、掲載されていたなかでも小説と漫画が特に好きだったそうです。「本を読むことで世の中や世界に触れ、人間とは何かと考えたり、良いことはもちろん、悪いことも覚えた。本は生活、心を豊かにする大切なもの。」と語ってくれました。

また、「大人になったら何になりたいか、何をやりたいか、ということが重要で、いろいろな情報を知らなくてはいけない。本を読むことで情報を得て、将来について考えてほしい。」と呼び掛けてくれました。

講演終了後には、須藤璃美佳さん（八森中3年）が「多くの情報に関心を持つことが大事だということが分かりました。日沼博士のように世界と深くつながりあうために、もっと多くのことに関心をよせ、多くの本を読んでいきたい。」とお礼のあいさつを述べました。

ファガスで行われた講演会の演題は、「故郷を出てから」。昭和20年、20歳の自分は鹿児島の陸軍で8月1日から15日間、陸軍少尉を務め終戦。その後に入学した東北大学医学部の学生時代から現在までの研究人生をご講演いただきました。

「根は医者、勉強したのは医学。」と学生時代は小児科医を志していましたが、当時盛んになってきた病原ウィルスの研究に触れたことで、研究者の道へ進むことに。まだ人間のがんの原因が解明されていない当時、自分では「がんの中にはウィルスよっておこるものもあるのでは。特に白血病は。」と思っていたそうです。

祝賀会では、同級生の鈴木アサ子（岩館2）さんから花束が手渡されました

その頃、アメリカの研究機関で人間のがん研究、特に白血病とウィルスの研究をする人材を求めていたので留学し、研究に没頭。

昭和55年、京都大学教授に着任した直後、同僚から「日本人特有の白血病が見つかった。ウィルスが関係しているらしい。ずっと人間のがんウィルスを研究し、日本のトップを走っている君が研究してくれないか。」と持ちかけられ、取り組み始めてからわずか3ヶ月で、成人T細胞白血病の成因ウィルスを突き止めました。

「20年近く研究を続けてきた背景があったので『作業仮説』を立てて実行に移した結果。」と振り返っていました。

講演の最後に、医学の道を60年歩んでこられた日沼博士は、「医」とは何かと問われれば、人を100年も200年も生かすことではなく、「『医』とは、人間を病の苦痛から解放すること。」と答えてくれました。

健康はっぽう21フェアを開催しました

ひろがり　深まり　つながり　の健康づくり

10月23日、ファガスにおいて健康はっぽう21フェアを開催しました。第2回目の開催となった今年のテーマは「がん予防」。

午前中は、中高年が手軽に体力測定できる「健康クラブ」が行われました。会場には、起立時間やバランス、握力、垂直跳びなどを測定するコーナーが設けられ、参加者たちは自分の体力チェックを行いました。（写真1）

がん予防コーナーでは、乳がん触知体験（写真2）が行われたほか、たばこの代表的な有害物質のひとつである一酸化炭素濃度を測定するコーナーも設けられ、愛煙家の呼気中の一酸化炭素濃度測定（写真3）も行われました。

昼食時間には伝統食サービスタイムとして、漁協女性部ひより会より「ほっけのつみれ汁」がふるまわれました。

〈写真1〉

午後からは、町営診療所の医師、秋元久衛所長が「共に考えよう！がん対策」と題して基調講演を行いました。

秋田県での死亡原因（平成21年1月から同12月末までの統計による）は、1位がが、2位が心疾患、3位が脳血管疾患となっており、がんによる死亡率は平成9年から13年連続で全国1位（心疾患は同6位、脳血管疾患は同2位）となっており、本町でもがんの死亡率が高くなっていることなどを説明しました。秋元所長は、がんの死亡率を低下させるためには、定期的にがん検診を受け、早期発見・早期治療が重要であるとともに、適度な運動、食生活の改善も大切とアドバイスしました。

〈写真2〉

基調講演終了後には、健康エンジョイクラブの伊藤容子さんが「季節の花とともに散策を楽しむ」と題して今年の4月から取り組んできた散策の内容を紹介したほか、茂浦民謡同好会による民謡踊りが披露（写真4）され、参加者たちは有意義な一日を過ごしました。

〈写真3〉

〈写真4〉